

Campus Today



松本歯科大学
発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

秋空の下 体育祭で学生の絆深まる

参加者全員が抗体検査を受けて開催 熱戦を展開しコロナ禍を吹き飛ばす

さわやかな秋晴れの10月25日(日)、体育祭実行委員会主催による第31回体育祭が本学陸上競技場で開催された。歯学部学生や衛生学院生、教員など約170人が参加して多彩な競技に一丸となって奮闘し、スポーツの秋を満喫した。

体育祭はスポーツを通してともに汗を流し、一致団結して交流を図ることを目的に、歯学部第2学年の伊藤公平君が実行委員長を務め、学生有志約25人が企画・運営にあたった。当日は受付で参加者全員の抗体検査が実施され、陰性を確認してからの開催となった。伊藤実行委員長が競技内



第31回体育祭で奮闘した参加者たち



部活対抗リレー (本学写真部撮影)

午後の部は障害物リレーから幕を開けた。今年はコロナに配慮し、パン食いや粉の中の飴を食べる障害をなくし、スプーンにピンポン球をのせたり、ぐるぐるのバットやネットくぐり、学力テストなど体力や知力を問う多種の障害を行った。○×タイズでは、宇田川歯学部長から出題され、一般常識を問うものから医療関係、本学にまつわる出題まで多岐にわたり、学生たちの頭を悩ませた。接戦を制し見事優勝に輝いた第2学年の田中周作君は「優勝できると思っていなかったもので、とてもうれしです」と豪華優勝賞品を持って喜びを語った。

伊藤実行委員長は取材に訪れた地元テレビ局のインタビュアーに答え「体育祭を無事に終え、部活動の再開につながっていくといいと思います」と語った。閉会式で中村浩彰教務部長は「皆さんの楽しそうな顔を見ることができて、大変良かったです。来年も開催できることを期待しています」と総評し、実行委員をねぎらった。

秋空の下、学生たちの努力が実り、歯学部や衛生学院の垣根を越えて親睦を深め、全員が楽しめた体育祭となった。

地震・火災発生を想定して迅速に行動

大学・病院の防火・防災訓練

10月16日(金)、大学および病院の防火・防災訓練が行われ、学生、歯科臨床研修医、新入職員ら総勢228人が参加した。

午前の部では、旧動物舎跡地で消火器、本館7階と病院警備室西側広場で消火栓の取り扱いを学び、本館南棟4階屋上からは斜降式救助袋で降下訓練を行った。

今回の学生の避難訓練には、歯学部生に加えて衛生学院生も

参加した。11時30分に地震が発生したという想定のもと、キャンパスイン101教室で授業を受けていた歯学部第1学年生および本館3階で授業中の衛生学院第1学年生は、直ちに机の下に身を隠し、シェイクアウト姿勢をとって自分の身を守った。

揺れが収まると、自衛消防隊が初期消火すると共に、学生たちの避難誘導の実施訓練、安否確認が行われた。第1学年主任の

キャンパス内の芝地で活躍!

～賢くてけなげな働き者～

スウェーデン製自動芝刈り機

10月2日(金)より、本学に自動芝刈り機2台が導入されました。土日の休日も雨の日も本館前の東と西の芝地を動き回って芝を刈っています。

スウェーデンにあるオートバイやチェーンソーなどのメーカー・ハスクバーナー(Husqvarna)のロボット芝刈り機で、黒くてLEDライトがトレッドマークのAUTOMOWER430Xとオレンジ色で足の速いAUTOMOWER550です。

本学の来訪者の中には、珍しいロボット芝刈り機の動きに、しばし立ち止まって眺める方もいらっしやいます。充電式になっていてバッテリーが減ってくると自分で充電器まで戻り、充電が終わるとまた芝刈りに戻る、とても賢い働き

者です。どのくらい働き者かというと、430Xは1日3200㎡、550は5000㎡も芝を刈ります。充電の時以外はひたすら芝を刈り、GPSを利用して自分の位置を把握し、刈り残しの無いようにけなげに動いています。障害物があるとちゃんと避けて進み、動きもどこか愛嬌のある可愛い2台です。

この2台のロボット芝刈り機のおかげで、人手や管理コストも抑え、とてもきれいな芝を維持できるようになります。シーズンもあとわずかです。冬眠(作業休止)に入りますが、また春には校内を走り回り、芝の管理をして皆さんに喜んでいただけたらいいなと思います。



自動車刈り機「AUTOMOWER430X」

天気の良い日には皆さんも一緒に校内を歩いてみませんか。(日本スウェーデン株式会社 統括部長 小松敏幸)

午後の部では、病棟関係者向けの消防用設備の取り扱い説明、入院患者の避難誘導訓練が行われ、担架、キャリーマット、キャリガンを使い、病院棟4階から入院患者を1階まで避難搬送する訓練が行われた。

前島信也病院長は「避難の際に①通報、②初期消火、③避難誘導、④動けない人の搬送の4項目が最も大切」と話し、今回の避難訓練では「互いの声の掛け合いもあり、短時間にスムーズな避難を実践できた」と講評した。



シェイクアウト姿勢をとる第1学年生

しっかりしろ、日本郵便

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事
特命教授 飯島勲

今月号は「週刊文春」10月22日号「飯島勲の激辛インテリジェンス」より、日本郵政の度重なる不正問題に関する記事を転載します。

最近、女房の機嫌が悪くてさ。なぜかって？郵便局がお粗末なのよ。ウチはマンションのわりと高層階に住んでるけど、不在票を郵便受けに投函せずに宅配ボックスに小包みを入れてあったりね。外から帰ってきて、部屋の玄関開けたら荷物が届いてますってランプが点滅してるじゃん。

あわててまた一階まで下りて行って疲れたぞ。そうかと思ったら、先日は書留郵便扱いになつてるものが、郵便受けに勝手に



日本郵政の増田社長

小泉氏は郵政相なのに、省益に反する郵政民営化を真っ向から唱えていたからね。郵政省の役人も大臣室にはろくに政策の説明にも来ないような状態だったよ。「こんなに速達が届かないんだつたら、高い料金払って普通郵便と一緒に届かないか」とオレも文句言っただけで、役人は馬耳東風さ。

事務職員の耳打ち

ただ、何だか変でさ。オレの生まれ故郷の辰野町や、今でも自分の家がある駒ヶ根市といった上伊那地域は未配達に一切該当してないし、理事を務めている松本歯科大学の所在地になる塩尻市も外れてるんだよ。飯島からあそこどうだろさく言

だけ、何だか変でさ。オレの生まれ故郷の辰野町や、今でも自分の家がある駒ヶ根市といった上伊那地域は未配達に一切該当してないし、理事を務めている松本歯科大学の所在地になる塩尻市も外れてるんだよ。飯島からあそこどうだろさく言

われないためかな。そうかと思えば、この前はあつた政府中枢機関の事務職員がこつそり耳打ちよ。「飯島さん、ウチの郵便ポストから投函すれば、速達料金はいりませんよ。都内だったら普通郵便でも即日、届くんですから」だって。速達になんかしたこたないつて言うから驚いたぜ。

「その精神に対して涙が出る程の感激をもって受けとめたことを覚えている。それは従来までの個を喪失させられた国家主義的皇道精神から離脱し、この尊厳が基本となり、自由な世界観を求め得る民主主義的思想に立脚したものだからである。」

COVID-19 院内感染予防を学ぶ

第1回医療安全講習会を開催



講演をする前島病院長

9月28日(月)に2020年度第1回医療安全講習会を開催した。今回は新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、密を避けるために1回の受講者数を制限して実施した。

教授に「COVID-19と院内感染予防」と題して、新型コロナウイルス感染への対応に関する講演をいただいた。新型コロナウイルスの特徴や現在の感染拡大状況などについて話され

た。また、歯科医療ではエアロゾルが発生する危険性のある処置を行うことが多く、標準的な感染予防策の徹底と新型コロナウイルス感染者を診察した場合の就業制限等の対応などに触れられる重要性が強調された。



県内在住の秋期入学学生(前列)

「小、中、高校の子供たちにどんなに『いじめっ子』をする

9月28日(月)、大学院の秋期入学者に対する説明会を実施した。研究を志し、大学院へ進んだ院生は5人であったが、今回の参加者は県内在住者の2人であった。それぞれに勤務医として働いておられる中、新たな学びに加わる意気込みは、緊張した面持ちの中に表れていた。

「様々な角度から検討し計算してみるとそれはなかなか大変な事では一時は落胆して断念しようとしたところだ。」

秋季入学の報告と進学の勧め

大学院秋季入学者説明会

に記載していただきますようお願いいたします。

「本紙 Campus Today の創刊号は1985年11月号で、第1面には学士入学と外国人留学生の受け入れが開始されるニュース、そして第2面創業者矢ヶ崎康先生の「桔梗が原随想」の1回目が掲載されている。

創立者の「視点」



大学誌編集主任
特任教授 笠原浩

「本紙の教育」を探し求める先生の情熱が、当時所属されていた民主主義科学者協会、大勢の学者や文化人などと語り合うなかで、「理想の学園づくり」へと大きく膨らんでいったよう

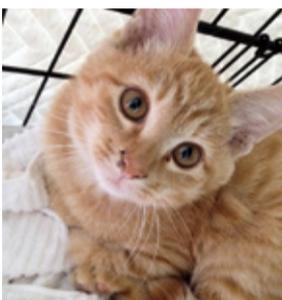
「本紙の教育」を探し求める先生の情熱が、当時所属されていた民主主義科学者協会、大勢の学者や文化人などと語り合うなかで、「理想の学園づくり」へと大きく膨らんでいったよう

人と動物が共生できるキャンパスめざす キャンパスインにおける外猫の不妊化手術を実施

本学キャンパスイン敷地内に増えた外猫の対策として、NPO法人「こねこの会」と猫の譲渡・保護団体「もふもふ堂」の協力を得て成猫・子猫10匹を保護し、松本信賢獣医師（しんけん動物病院院長）により不妊化手術が実施された。譲渡先が未定の猫の世話は学生有志が行っていく予定で、人と動物が共生できる社会をめざす。



移動手術車内での猫の不妊化手術



保護された猫

古くから人と犬や猫は密接に関わりを持ち、私たち人間に対して多くの癒しを与えている。しかしながら、人間の身勝手な行動から捨てられてしまう動物や虐待によって殺されてしまう動物も少なくない。

NPO法人「こねこの会」（代表 田中洋子さん）では、2007年から松本城周辺で激増した外猫の保護を積極的に行っている。

かねてから、キャンパスイン敷地内で生活する外猫の増加は、防犯上や衛生面において大きな問題となっていた。可愛い猫に対して学生が餌を与えることになってしまったわけである。

今回、キャンパスイン支援センターが主体となり、猫の譲渡・保護団体である「もふもふ堂」の山口美智子さんと「こねこの会」の太田真理子さんのご協力



獣医師の松本先生

を得て、キャンパスイン敷地内において生活する成猫・子猫の合計10匹を保護し、松本信賢獣医師により、移動手術車内において全身麻酔下にて不妊化手術が実施された。手術後は、混合ワクチンを接種し、FIV（猫エイズ）およびFeLV（猫白血病）の罹患の有無を調べる血液検査を行い、全匹健康状態良好であることを確認した。

今後は、成猫数匹がキャンパスイン敷地内で「番猫」のようにな役割を果たし、周辺地域からの他の猫ファミリーの流入を阻止することになる。野外飼育猫の世話については、本学の猫愛好会（仮称）所属の学生が主体となって担当する予定である。

松本獣医師は、本年4月より「臨床公衆衛生獣医師」として、動物病院搬送の地域住民および猫の負担軽減のために、保護された外猫がいる現地において、移動手術車内で不妊化手術を行う専門病院を立ち上げ、10月現在850匹を超える不妊化手術を実施してきた。

責任の重さと使命感を自覚し決意新たに 衛生学院歯科衛生士学科 戴帽式

衛生学院歯科衛生士学科 戴帽式

松本歯科大学衛生学院歯科衛生士学科第44期生の戴帽式が10月20日（火）、本学7階講堂で厳かに執り行われ、第2学年28人が式に臨んだ。

戴帽式は、学生たちが病院で



厳かに挙行された戴帽式

を忘れずに実習に臨みたいと思います。病院に携わる全ての方々からたくさん学びを得られるよう、またそれぞれが自身の目標を持って取り組み社会に貢献できる歯科衛生士になるため、努力してまいります。私たち一同は何事にも挫けぬ強い意思とひたむきな精神を維持し、最後まで頑張ります」と誓いの言葉を述べた。

病院だより vol.26

シリーズ 診療部門紹介①

地域連携歯科

Special Care Dentistry

地域連携歯科は、障がい者、高齢者や全身疾患を有する患者の診察を担当しています。歯科恐怖症の患者も多く来院されています。多くの症例で通法での歯科治療が困難であり、全身状態や精神発達年齢の把握のため患者さんまたはその家族から詳しく医療情報を取得することから診療が始まります。患者の要望も考慮し、必要なら患者に適した行動調整法を行います。医

科麻酔研修を修了した歯科医師が笑気吸入鎮静法・静脈内鎮静法などを実施し、患者の歯科に対する恐怖を軽減させることや歯科治療への協力の改善を図りますが、う蝕などの口腔疾患の重症度が高い、あるいは鎮静法では対処しきれない症例では全身麻酔下集中歯科治療を選択しています。

薬剤鎮静には予約が必要で診療前の飲食を制限することがあります。笑気吸入鎮静法は通常飲食制限なしですが、静脈内鎮静法は予約の6時間前から飲食制限をしたうえで日帰りでの対応が可能となっています。飲食制限は処置時の嘔吐からの窒息などを予防するためであり患者さんにその必要性を理解してもらう必要があります。全身麻酔下集中歯科治療は歯科麻酔科との連携により実施され、全身の安全管理のために基本的には二泊三日の入院をお願いしています。

う蝕や歯周疾患の治療の後にも、口腔疾患の早期発見、歯科治療トレーニングやブラッシングの成果確認のために定期検診を行い、口腔内のメンテナンスも続けるなど指導管理にも力をかけています。高齢者・障がい者は歯科診療施設への通院が困難となることも多く、口腔疾患の重篤化が問題となってきました。そこで病院と提携した県内の施設への出張検診を毎週火曜日に行い、通院が困難な住民の方々の早期発見が可能になるよう努めています。また、いわゆる「歯科医療難民」を発生させないよう、通院が困難な患者さんからの要望があれば病院・施設・居宅への訪問歯科診療も随時行うなど歯科中核医療施設としても役割も担っています。

当科が担当する患者さんでは摂食機能障害を呈する方も多いのですが、食べる機能の回復には器質的な咬合の回復も重要であり、両者を総合的に診察することが重要です。摂食嚥下リハビリテーションセンターと連携し、スクリーニング検査や嚥下内視鏡・嚥下造影検査などの精密検査の後に嚥下トレーニングを指導しています。こちらも通院困難な患者さんがいれば病院・施設・居宅での診療も行っています。

また、この四月から当科に「いびき外来」が新設されました。内科医からの診断書があれば歯科補綴の専門医が口腔内装置の製作を行い、中等度までの睡眠時無呼吸症候群の歯科対応ができるようになりました。全身疾患を有する患者や嚥下障害への治療とあわせて、松本歯科大学病院における歯科医療連携の軸として機能できればと考えています。

当科には教授の指導の下に現在10人の歯科医師が在籍しており、症例検討や関連する研究を重ねて日々研鑽しています。治療の特殊性から歯科衛生士の業務も専門性が高く、全身管理のために看護師も専属として協力してくれています。

通法での診療が困難な方、摂食嚥下障害、睡眠時無呼吸症候群などの症状がありましたらお気軽にご相談ください。

（地域連携歯科講座 主任教授 嶋島弘之 助手 山根久之）

乳がん検診啓発活動の一環として ピンクリボンマスク自動販売機を設置

ピンクリボンマスク自動販売機を設置

本学では10月20日（火）から本館エントランスフロアに設置した自動販売機で学生・職員を対象としてピンクリボンマスクの販売を始めた。ピンクリボンマスクは、9月のSD研修会でご講演いただいた京都府立大学の塚本康浩学長とともにダチョウ抗体マスクを開発したクロシード株式会社の商品で、自動販

売機は同社から無償で貸与していただいた。ピンクリボンマスクは、乳がんの正しい知識を広め、早期受診推進を目的とした世界規模の啓発キャンペーンのシンボルで、マスクの左下にはこのマークがあらわれている。価格は1枚100円（個包装）で、収益の一部は同社が推進する、女性に乳がん

検診の大切さを伝える機会を提供する事業「Home Project」を通じて障がい者福祉施設の無償乳がん検診推進活動に役立てられる。

（病院事務室 係長補佐 早川大輔）



ピンクリボンマスクと自動販売機

Alumni News

松本歯科大学校友会

第247回校友会理事会

会長・会頭のもとに県内、学内役員が参集



再会を喜び、会長・会頭 矢ヶ崎 雅先生を囲む理事会出席者

9月17日(木)に第247回校友会理事会が県内役員の方のご出席をいただき、会長・会頭 矢ヶ崎 雅先生(1期生)を始めとする学内役員と共に会務を行った。会務に先立ち、ご参

集いただいた副会長 松田泰明先生(2期生)、監事 有賀功先生(3期生)、理事 笠原哲三先生(4期生)、理事 野本喜永先生(10期生)に対しては到着後すぐに抗原および抗体検査を実施、陰性を確認した。本来であれば6月21日(日)に第41回校友会総会の開催を予定しており、全国各地より役員の方にご出席をいただく予定であったが、本年は新型コロナウイルスの感染拡大という不測の事態に見舞われ、開催を断念せざるを得なかった。

このコロナ禍の影響によりマスクや防護具等の物品の不足が全国各地で叫ばれたことは記憶に新しい。とりわけ従来から歯科においてはマスクや防護具等は必要不可欠であり、本学校友会はリモート会議等を駆使して全国各地の会員の状況把握を行った上で、早くも全会員へN95マスクを始めとする感染症対策支援を行った。

更には準会員であり将来は会員として活躍を願う本学学生の徹底するよう指導を行い、公衆衛生における防疫をハイテク技術がサポートすることにより、検査管理が容易となったため、都市封鎖や大規模感染爆発を防止できたことは奇跡と言えよう。

今年6〜7月頃と比較して、現在の台湾ではレストランの多くがコロナ禍以前の状態に戻りつつある。しかし外国との出入国制限により、台湾の主力産業である観光業は不景気の状態が続いている。松本歯科大学で勉強に励む後輩たちには手洗い、ソーシャルディスタンス、マスク着用など自主管理を徹底し、心穏やかに、然し気は抜かず、これ以上の感染拡大を防ぎ、一日も早く平穏な生活を取り戻せるよう、遠き台湾の地から切に願っている。

皆さんが安心・安全な環境で対面授業を行うことができる環境になれば、本学の方針に呼応して病院内前や大学エントランス等に仮設テントの設置の協力を行った。

まだまだ予断の許せない状況ではあるが、大学において学生を大切にしようという大学の方針に校友会が微力ながら協力できればと、久しぶりの対面会議の中で活発な意見交換を行った。会務終了後は中国料理レストラン「スターダスト」にて矢ヶ崎 雅先生よりご挨拶をいただき、更に出席者全員から近況報告が述べられ、厳しいコロナ禍にあっても笑顔で校友を助け合い、一丸となって乗り越えることをそれぞれが誓った。

台湾の新型コロナ対策について

台湾だより Vol.4 台湾名誉支部長 9期生 林干防

台湾における新型コロナウィルス感染症起因の肺炎患者第一号は2020年1月21日に中国武漢から台湾へ帰省した女性であった。しかし、台湾ではこの新たな感染症が世に知られるようになった2020年始めには武漢からの直行航空便で搭乗に際して検疫を実施しており、1月20日には国家レベルの「中央流行疾病対策センター」が開設され、物資・人員の整備と入国時における検疫を強化し、地域レベルの防疫も次第に展開していった。最初の感染者が確認されてから9月26日現在で累計510例の感染者、うち回復者480例、死亡7人と、国内外との人的往来が多い台湾にとって

は感染者が少なく、国際的に見ても稀なケースとなった。特筆すべきは、明確な疾病対策と検疫によるコントロールで死亡率

を下げ、陰性を確認した。本来であれば6月21日(日)に第41回校友会総会の開催を予定しており、全国各地より役員の方にご出席をいただく予定であったが、本年は新型コロナウイルスの感染拡大という不測の事態に見舞われ、開催を断念せざるを得なかった。

このコロナ禍の影響によりマスクや防護具等の物品の不足が全国各地で叫ばれたことは記憶に新しい。とりわけ従来から歯科においてはマスクや防護具等は必要不可欠であり、本学校友会はリモート会議等を駆使して全国各地の会員の状況把握を行った上で、早くも全会員へN95マスクを始めとする感染症対策支援を行った。

更には準会員であり将来は会員として活躍を願う本学学生の徹底するよう指導を行い、公衆衛生における防疫をハイテク技術がサポートすることにより、検査管理が容易となったため、都市封鎖や大規模感染爆発を防止できたことは奇跡と言えよう。

今年6〜7月頃と比較して、現在の台湾ではレストランの多くがコロナ禍以前の状態に戻りつつある。しかし外国との出入国制限により、台湾の主力産業である観光業は不景気の状態が続いている。松本歯科大学で勉強に励む後輩たちには手洗い、ソーシャルディスタンス、マスク着用など自主管理を徹底し、心穏やかに、然し気は抜かず、これ以上の感染拡大を防ぎ、一日も早く平穏な生活を取り戻せるよう、遠き台湾の地から切に願っている。

皆さんが安心・安全な環境で対面授業を行うことができる環境になれば、本学の方針に呼応して病院内前や大学エントランス等に仮設テントの設置の協力を行った。

まだまだ予断の許せない状況ではあるが、大学において学生を大切にしようという大学の方針に校友会が微力ながら協力できればと、久しぶりの対面会議の中で活発な意見交換を行った。

会務終了後は中国料理レストラン「スターダスト」にて矢ヶ崎 雅先生よりご挨拶をいただき、更に出席者全員から近況報告が述べられ、厳しいコロナ禍にあっても笑顔で校友を助け合い、一丸となって乗り越えることをそれぞれが誓った。

（校友会常務理事 10期生 岡藤範正）

26期生・松村康平先生が優秀論文賞受賞

第37回日本障害者歯科学会

第37回日本障害者歯科学会にて松村(筆者)が「経管栄養の要介護高齢者における口蓋の剥離上被膜の形成過程」の研究で優秀論文賞を受賞しました。今年度はコロナ禍であったため、自宅から授賞式にオンラインで参加し、ZOOMで収録・配信されることになりました。大変栄誉ある賞を頂戴し、興奮が冷めやしません。

この付着物はいったいどうやってできるのだろうかという疑問が湧き、形成過程について研究を行う機会を頂きました。剥離上被膜は口腔乾燥がある非経口摂取患者で口腔ケア後3時間以降から形成され、粘液物↓粘調物↓膜状物となり、後者になるほど除去の時間がかかります。口腔内より食事を摂取しない患者でも6〜12時間に1度口腔ケアを行わないと剥離上被膜が認められることがわかりました。また剥離上被膜は咽頭に落屑し、誤嚥性肺炎の原因にもなるとも今までの研究で報告されています。松本歯科大学からの一連の剥離上被膜の研究(6論文)により2020年度の保険改正で非経口摂取患者口腔粘膜炎処置(120点)として保険収載されました。今回行った研究は博士論文として提出し、博士号取得に向けて

同期をはじめ卒業生の皆さん、松本歯科大学で普段の臨床における疑問や興味を研究しに行ってみてはいかがでしょう？私も卒業後、大学に入学するたびに周囲の景観が変わり、発展していく大学と塩尻の風景に驚かされています。最後になりましたが、本研究の機会を与えてくださった小笠原 正先生をはじめ、研究にご協力賜った皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

(26期生 松村康平)

新型コロナ対策を行い 総合型選抜を実施

校友子女が数多く受験



ソーシャルディスタンスをとって受験に挑む

10月4日(日)、2021年度総合型選抜(Ⅰ期)と編入学選抜(Ⅰ期)が実施された。試験当日は受付で検温をし、熱が無いことを確認。試験室入り退室の際には速乾性アルコール製剤による手指消毒と、マスク着用を義務付けた。また、受験生と受験生の間には衝立を置

き、ソーシャルディスタンスを心がけ、試験が終わるたびに机を殺菌消毒し、換気を行うなど、新型コロナ対策を行った。総合型選抜は専願の入試であり、入学手続をする者と辞退ができない。そのため本学を第1志望とする人が受験しており、ほとんどが今年または昨年の一

日体験入学に参加している。今年の一身体験は、新型コロナの影響で実施回数が少なかったが、校友会の募集活動により、校友子女が多く受験してくれたため昨年に近い受験者数となった。

11月行事予定

1日(日) 一身体験入学(歯学部)

10日(火) 学校推薦型選抜②(歯学部)

11日(水) 学校推薦型選抜②(歯学部)

14日(土) 学校推薦型選抜(公募制指定校)校友子女選抜(歯学部)合格発表

17日(火) 学校推薦型選抜(公募制指定校)校友子女選抜(歯学部)合格発表

23日(月) 一身体験入学(歯学部)

25日(水) 大学院発表会

30日(月) II期試験(第5学年) IV期試験(第6学年)

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



twitter



Instagram



facebook



閻聖帝君(蜀の武将閻君)

「海外から戻ったばかりで在宅隔離されています。」玉帝「閻聖帝君(写真)は？」神々「彼は真っ赤な顔で37.5度の熱があったので、自宅で自主隔離しています。」

「何故千手観音の姿が見えない？」玉帝「まだ手を洗っていません。」神々「洗面槽は何故また来ない？」玉帝「1週間に3枚しかマスクがもらえないので、まだ一枚足りません。」玉帝「薬師如来はまだ来ないのか？」神々「必死にマスクを売っています。」

「それなら八仙(神話中の8人の仙人)は？」神々「海外から戻ったばかりで在宅隔離されています。」玉帝「閻聖帝君(写真)は？」神々「彼は真っ赤な顔で37.5度の熱があったので、自宅で自主隔離しています。」

「海外から戻ったばかりで在宅隔離されています。」玉帝「閻聖帝君(写真)は？」神々「彼は真っ赤な顔で37.5度の熱があったので、自宅で自主隔離しています。」

「海外から戻ったばかりで在宅隔離されています。」玉帝「閻聖帝君(写真)は？」神々「彼は真っ赤な顔で37.5度の熱があったので、自宅で自主隔離しています。」

「海外から戻ったばかりで在宅隔離されています。」玉帝「閻聖帝君(写真)は？」神々「彼は真っ赤な顔で37.5度の熱があったので、自宅で自主隔離しています。」